

# 道岳連だより

広報 NO.79  
平成29年1月10日  
北海道山岳連盟

<http://www.hokkaido-haa.net/>

## 謹賀新年

2017年 新年あけましておめでとうございます

北海道山岳連盟会長 小野 倫夫



会員の皆さん、新しい年2017年いかがお迎えですか。

昨年を振り返ると、一昨年の水害による日高線の停止に続き、清水町、南富良野町の浸水や、鉄道線路の決壊、日勝峠の道路決壊など、自然の力をまざまざと思い知らされました。このため登山計画が変更、中止など苦慮されたと思います。

「山の日」制定初年度、クライミング種目オリンピック正式採用など我々にとって喜びの年になるはずが、JRの道内廃止路線と相まって「厳しい現実」の年となりました。

全道交流登山会は、今年の全日大会を見据えてのリハーサル大会として、執行部が主管しました。天候には恵まれませんでした。親睦とリハーサルはできました。

国体競技は、成年女子で7位という結果に終わりましたが、選手層の移行の過程でもあり今後に期待できます。

トレランは、全国的にブームですが、大きな大会と競合する厳しさに直面しました。山岳遭難事故が、全国でも北海道でも昨年を上回り、深刻な中、「安全登山シンポジウム」は、道遭対協の啓発活動として重要視されています。

さて、今年は北海道山岳連盟にとって大きな事業があります。第56回全日本登山大会です。第2回、6回、11回、25回、37回、47回、と大会主管を務め、今回は7回目です。

前回は十勝岳をベースに実施しましたが、今回は7月6日(木)7日(金)8日(土)の日程で羊蹄山、ニセコ連峰を会場に選定しました。本部は定山溪にします。

憧れの北海道、懐かしい北海道と、全国からの山仲間は300人を超えると予想します。参加の山仲間が、感動の北海道を体感してもらおうと準備します。

昨年の島根大会には、岩見沢こぶし山岳会を始め、総勢25人が今年の大会運営の視察とPRを兼ねて参加してきました。

この全日大会運営のためには、全道の会員の皆さんの協力が必要です。大会を成功のため、様々な分野でのご支援、ご協力をお願いします。

# 安全登山シンポジウム 2016

平成 28 年 11 月 15 日・札幌エルプラザ

平成 28 年度の北海道山岳遭難防止対策協議会(道遭対協)及び北海道山岳連盟(道岳連)共催の「安全登山シンポジウム」は、去る 11 月 15 日札幌エルプラザで開催された。

今年は、北海道警察本部山岳救助隊救助対策官の松本孝志氏と、北海岳友会・日本山岳会の京極絃一氏を講師に招き、約 150 名の山岳愛好者を集めて実施された。

松本氏は、北海道警察機動隊特務中隊(レンジャー部隊)や山岳救助隊員として活躍、近年において増加が著しい傾向にある道内山岳遭難事故の具体的な事例を、スライド映像を示しながら講演した。京極氏は、海外の高峰遠征や北海道の標高 1500m 以上の 150 山を登った際の経験をもとに、山の危険と魅力、岩登りの楽しさなどについて参加者に語りかけた。

また、休憩時間には最新の雪崩用エアバックの実演も行われた。



## 第 71 回国民体育大会(岩手国体)山岳競技

第 71 回国民体育大会の山岳競技は、平成 28 年 10 月 7 日から 9 日の 3 日間岩手県盛岡市岩手県営運動公園山岳競技特設会場・ボルダリング競技場で開催された。

### 第 71 回国民体育大会北海道代表選手団

成年男子	監督	橋村 昭男	えぞ山道会(北海道医療専門学校)
	選手 1	古坂 賢太	北海道フリークライミング協会(Whipper Snapper Gym)
	選手 2	松浦 凌	T-wall(遠軽高校卒)
成年女子	監督	一安 敏文	北海道フリークライミング協会(一安組)
	選手 1	萩原 亜咲	北海道フリークライミング協会(Whipper Snapper Gym)
	選手 2	一安 瑛子	株式会社 秀岳荘
少年男子	監督	石井 昭彦	旭川山岳会(北海道防衛局)
	選手 1	関根 湊人	遠軽高校 3 年
	選手 2	亀田翔太郎	遠軽高校 3 年
少年女子	監督	長井 洋子	登攀道場美唄(株式会社 明治)
	選手 1	北谷 未紗	遠軽高校 2 年
	選手 2	上原子 瞳	札幌市立新川中学校 3 年
トレーナー		本堂 雄大	北海道フリークライミング協会(祐川整形外科医院)
		朝野 玄太	北海道フリークライミング協会(北海道整形外科記念病院)

## 競技結果

成年男子	リード	26位	ボルダリング	27位
成年女子	リード	9位	ボルダリング	7位 (入賞)
少年男子	リード	19位	ボルダリング	19位
少年女子	リード	16位	ボルダリング	12位

☆今年は怪我・故障による手術のため成年男子の杉本怜、武者知希両選手の不出場、また、本国体直前の怪我により小武芽生が選手交代し、例年になく苦しい戦いになりました。少年選手についてはさらなる強化が課題です。

## 北海道トレイルランニング大会2016

8回目を迎えた北海道アウトドアフェスティバル in ルスツは、同実行委員会が主催、北海道山岳連盟・北海道オリエンテーリング協会が共催し、9月24日ロゲイニング、25日トレイルランニングを尻別岳・ルスツリゾート周辺で開催し、トレイルランニングは306名が出場した。



今大会では、この時期に全国各地で開催されるトレラン大会と競合し、参加者が伸び悩んでいることや、50mileの完走率の低さ(男女26名中完走7名)などがあげられている。50mileの男子優勝は伊藤選手(12:36:37)、女子優勝は野中選手(14:13:21)。

当日役員として道岳連加盟団体から57名の会員が大会運営をサポートし、大きなトラブルもなく、大会は無事終了した。

## 行事・各種事業報告

### 第2回理事会 10/16 札幌市教育文化会館

平成28年度北海道山岳連盟第2回理事会は、札幌市教育文化会館で48名(委任状23)の理事が出席して開催された。議件として1号議案 平成28年度前期を振り返って2号議案 平成28年度前期事業報告について3号議案 平成28年度後期事業予定について4号議案 備品報告書5号議案 各種議題6号議案 その他が提案された。

明田理事長は、平成 28 年度の前期を振り返り、10 号台風等で林道や登山道の被害や道岳連事業の中止、恵庭岳、幌尻岳、八剣山での山岳遭難、全日大会準備の全道交流登山会、山の日事業、トレラン、個人会員の着実な増加、指導員養成などについての総括があった。

議案審議では、1 号議案で役員交代時の引継ぎ、女性役員を含めた役員選考方法、財政問題などについて質疑。2 号議案、3 号議案は各専門委員会委員長からそれぞれ報告・提案があり、全日大会担当コースのリーダー指名、個人会員のフォロー体制、指導員研修会不参加者の代替講習、自然保護指導員役割と役員の指導員登録などの質疑応答を経て承認。5 号議案では、道内山岳団体交流会、安全登山シンポジウム、日高研修所納会、トレランの反省と来年への展望についての報告と提案があった。第 6 号議案では、組織管理規程の一部改訂を審議し、15 時に閉会した。



## 日高登山研修所納会 10/29-30 日高登山研修所

日高研修所納会は、加盟団体会員 52 人が参加した。専門委員会の会議は受付前に実施、例年通り受付後に内外の大掃除、冬囲いを行い、千栄会館は、沙流川の氾濫で半壊したため、研修所運営委員が不用品等を整理整頓した談話室や研修室で一連の催しを行った。16 時から蘭友登高会横山、札幌山の会秋元、釧路山遊会下山の各氏が、海外登山・トレッキングの経験をスライドで講演。その後、夕食と懇親会を行った。

二日目、近郊の銀嶺山登山、スポーツクライミング、救急法・ラッピングに分かれて安全登山研修を行い解散した。



懇親会中に日ハムが日本シリーズ制し、バンザイ



なお、前述のとおり研修所納会に先立つ10月24日-25日に運営委員など9名が参加して、研修所内の不用品整理や物品の配置換え等を行った。

千栄会館が沙流川の氾濫で半壊し、道岳連のみが使用していた研修所台所付休憩室を地元住民の皆様が使うことに鑑み、この機会にその他の部屋にも蓄積された不要物等を処分。その量はトランク5台分となった。右写真のとおり会館の復旧は着手されていないが、流失した国道274号線千呂露橋は仮橋が架けられていた。



## 第55回全日本登山大会島根大会 11/4-6 三瓶山

第55回全日本登山大会は、“世界遺産と神話の山を辿る”のスローガンのもと、11月4日～6日まで島根県三瓶山(1126m)、石見銀山など全5コースに160余名が参加して開催され、道岳連からは次回開催地として小野会長ら25名が参加した。

参加役員の感想として、大会運営は全体的にスムーズであったが、主催者側と参加者の交流の場が少なかったのがやや残念。アトラクションの伝統郷土芸能「石見神楽」は圧巻、料理も素晴らしい。56回大会で北海道らしさをどう演出するか… が大きな課題として持ち帰られた。



松江サルテで開会式



道岳連参加者は三瓶山全山縦走コースを踏破

### ・・・ 全日本登山大会（島根）に参加して こぶし山岳会 後藤 孝仁 ・・・

初冬の気配となった岩見沢を脱出し、こぶし山岳会メンバー10名と共にロマン溢れる島根を訪れました。今回は全日本登山大会島根大会への参加が目的でしたが、訪れることの無かった島根の良さを満喫するため4泊5日の旅程を組みました。

11月2日、千歳から神戸に飛び、車で島根県出雲へひた走る。その足で縁結びの出雲大社で旅の安全祈願。長い旅の初日を終了する。

11月3日、世界遺産「石見銀山」の完全踏破を目指しました。世界遺産センターから仙ノ山展望台に向け急峻な杉林の山道を登る。登山(仙ノ山)とアドベンチャー(洞窟探訪)と観光(大森街並み)の盛り沢山なメニューに心が満たされる想いでした。観光気分では行けない険しい最深部を踏破できたことは価値のある探訪でした。「歴史と遺産と人との絆を未来に引き継ぐ」ことを唱える大森町住民憲章に感動する。

11月4日、足立美術館にて美術品や日本庭園を鑑賞する。あの横山大観、名立たる絵画の存在に

圧倒され、日本庭園の美しさに息を呑む。

11月5日、今日はハードな三瓶山全山縦走です。三瓶カルデラを中心に鎮座する5峰を周回する稜線歩きは、かつて訪れた大雪山の御鉢平の稜線歩きを思わせます。変化に富んだ景観の素晴らしさに感動しました。ススキ波打つ平原の向こうに男三瓶山のノッペラな頂を見上げながら、重い足取りで頂上に立つ。出雲の大パノラマを心に焼き付け青少年交流の家に無事到着する。松江に戻り、交歓会で披露された伝統芸能である「石見神楽」を堪能し、その大迫力に感動する。

全日本登山大会を主催された島根山岳連盟様及びスタッフ様の淀みない運営と心温まる「お・も・て・な・し」に、改めて当会メンバー共々、深く感謝致しております。ありがとうございました。

共通の趣味を持つ山友と、出雲神話の土地で盛り沢山な5日間を共にできたことは大きな喜びでした。帰宅後、旅装を解きながら楽しかった旅の余韻に浸りました。



香り袋の店



男三瓶山ピーク

## 夏山講習会 PartⅢ 9/17-18 西別小屋・西別岳～摩周岳

夏山講習会 PartⅢは、「西別岳・摩周岳と温泉」として受講者19名(一般3名、個人会員12名、山岳会員4名)で実施した。

スタッフ (普及委員) 横山 温 秋元 篤男 橋本 一郎 東海林 春樹 横山 泰子

(釧路山岳連盟-) 千田 栄三 友保 信一 播磨屋 俊達 名和 幸彦 立田 恭子 中尾 敬子 内藤 玉代

### 9/17 (土) 小雨のち曇り

弟子屈町9:00 草原レストハウス集合。西別岳山麓の西別小屋へ移動、宿泊の準備をする。

小屋泊、テント設営、共同テント、個人テントの宿泊のレクチャー。夕食後、「養老牛温泉 湯宿 だいいち」で入浴した。各自寝床に分散して、22:00 就寝した。曇り空で月、星なし。

### 9/18 (日) 夜半小雨、日中曇りのち晴れ

参加者のほとんどが西別岳・摩周岳は初めて。西別岳は加藤利助さん、標津山岳会が常時整備し、山道は快適な環境だ。摩周岳は環境省が整備している。

登るにつれ、雄大な展望が広がる。青空が広がり、カムイヌプリ摩周岳山頂から、摩周湖、山々の景色は額縁の絵のようです。

小屋整理と食事は、釧路山岳連盟(釧路山遊会、釧路白湯山岳倶楽部)の全面的な支援を受けた。各諸氏、千田、友保、播磨谷、名和、立田、中尾、内藤の7名の皆さまに感謝。(報告 橋本一郎)

今回の山行を企画担当され、下見山行を行った秋元副会長、橋本さんご苦労様でした。又、釧路山岳連盟の7名の方々から、道岳連の仲間意識の感ずるおもてなししていただき、参加者一同感謝しています。

参加者の皆さんの普段からのトレーニング、山への関心の強さを感じずる質問、行動を見せていただきました。次回からの冬山山行も自然の山で楽しみましょう。（普及委員長 横山 温）



西別小屋前で



西別岳山頂

## 参加者感想文

### ① 帯広市 S・Yさん

今まで日帰り装備での山登りしかしたことがなかったので、今回の講習会では山小屋泊を体験し、山小屋泊やテント泊を想定した荷物を持って歩く、という目的を持って参加しました。

山小屋についてまずはテント設営。数名の方がテントを持ってきており、その設営を手伝わせてもらいました。メーカーによって構造や設営の仕方が違うので、これから購入を考えている私にとってとても参考になりました。山小屋泊は初めてなので眠れるのか不安でしたが、そのわりには人一倍早く眠りにつき、朝までぐっすり眠ることができました。

二日目、西別岳～摩周岳への縦走です。長い距離ではありましたが、平坦な道が多いことや、根釧原野や摩周湖を道中見られたりすることで、楽しく気持ちよく歩くことができました。天候があやしい部分もありましたが、おそらく参加した皆様の日頃の行いのなせるわざでしょう。山頂に着くと日が差し、素晴らしい展望を見せてくれました。

今回、講習会に行く前の荷物の精選、パッキングの仕方に始まり（講習会に行った）講習会翌日の縦走を想定しての山歩きまでを含め、得ることの多い講習会となりました。企画運営をしてくださった道岳連の皆様、心温まるおもてなしをくださった鉚路山遊会、鉚路山の会白湯山岳倶楽部の皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。今後もこのような、スキルアップができるような企画を期待しております。



### ② 稚内さん

9月17日朝5時に稚内を出発、稚内を出た時は小雨模様の嫌な天気でした。集合場所の草原レストハウスまでは、途中本降りの雨の中無事到着。札幌の皆さんと合流する所には、普段の行いの良さ？からか雨もあがり、天気も回復してくれました。

ほどなくして西別小屋到着、なんと立派な山小屋でしょう。一時小屋泊まりも…などと考えもよぎりましたが、数十年前の夏のキャンプ以来のテント泊、ましてやmyテント！ 単独設営も初体験ながら、手伝ってもらい設置完了。今宵の宿も無事確保できました。テント持参の方々は、各社いろいろなテントを持参され、各社ごとの機能の違いを学びました。今後、テント購入の参考にされる方には、よい機会だったでしょう。

少し早い夕食には、釧路からのスタッフの方に大変ご足労をかけ、あのような豪華な山食を提供していただき、有難うございました。過去二回ほど道岳連さんの講習会に参加いたしましたが、夕食の豪華さと美味しさには、お酒がつつい進んでしまいます。

翌朝4時に起床。眠い目を擦りながらのテント撤収、ペグの収納漏れもなく何とか独りで撤収を終えることができ、今後のテント泊の実践訓練は無事完了いたしました。

18日のメイン行事である西別岳から摩周岳への縦走は、6時過ぎより西別岳登山口から開始。“りすけ山”山頂までの整備されたコースには驚かされました。りすけさんにはただただ感謝です。りすけ山から西別岳山頂への縦走路は天気も回復し始め、低山とはいえ心地よいコースの中に、道東の山々や牧草畑を見ながらのトレッキングを楽しむことができました。また、西別岳から摩周岳分岐までの白樺林の中の縦走は、コンディションの大変良い山道と、道外を思わすような景色に距離を忘れての山行でした。

しかし、トレッキング気分もここまで、摩周岳山頂までのアタックは、距離こそ短かったですが、本格登山でした。ただ、摩周岳山頂は天気も回復しベストコンディションの中、霧のない絶景の摩周湖と切り立った断崖の稜線には、遠くから見るだけでは味わえない素晴らしさを感じました。第一展望台までの帰路の縦走は、雨も何とか持ってくれて先の見えない長いものでしたが、展望台到着時には思わずやったーとの声を出していました。

解散時の草原レストランのバーベキューは、稚内への帰路につくわずかな時間でしたが、腹ペコのお腹を十分満たす食事でした。道岳連スタッフの皆様、釧路からお越しのスタッフの皆様には二日間大変お世話になり、誠にありがとうございました。今後も稚内からではありますが、時間の許す限り参加しますので、よろしく願いいたします。二日間楽しい時間を過ごせました。大変ありがとうございました。

### ③ I・Mさん

夏山講習の案内を一目見た時、霧の摩周湖にひっそりと佇むであろう摩周岳に憧れ、参加しました。

1日目は大きなログハウスの西別小屋に宿泊。釧路山の会のメンバーさんの温かいおもてなしで、翌日の縦走へ心身ともに準備万端整いました。ワイルドな鮭のチャンチャン焼きには感動。野菜も豊富。野外料理にはうってつけ。私たちも使わせていただきます。



2日目は若干曇っていたけれど、登山にはまったく問題なし、西別岳は799mの小ぶりな山だけど、兎に角手入れが良く、明るく登りやすい。根釧台地が広がり、前方には知床連山まで見える。道東の飾りっ気のない風景が魅力です。2時間ほどで摩周岳分岐に着く。西別岳より険しくなるが、明るく見晴よく、何より右手に碧く光る摩周岳がずっと付いて来てくれる。湖面の真ん中に小さな島を発見！今迄、霧にむせぶ摩周湖しか知らなかったのだから、気づくはずもなかったのだ。ポコンと可愛い島でした。

摩周岳頂上は切り立った崖の上で、全員はとても立てない程の狭さと、下の崖を覗くと身がすくむほどの絶壁・断崖、落ちれば命は無さそう。地図の等高線のまんま、でした。碧い湖・碧い知床の山影、切り立った山頂、参加して良かった。メンバー皆で登れて良かった。ただ、台風10号の痕跡を道東のいたるところで見たので、地元の皆様の中を思いながらの山行でした。そして今回の開催を準備・計画して下さった方々有難うございました。思い出の縦走になりました。そして最後にお山に感謝でした。



## 高所登山講習会 8/25-28 富士山

本年も8月25日から28日までの3泊4日で富士山頂に泊り、高山病を体験する1合目からの富士登山が行われました。

参加者は函館や札幌周辺から16名の大所帯となり、札幌山岳連盟の越後谷氏をサブリーダー、同じく杉林氏、野田氏にサポートをお願いし、万々に備えました。

25日は新千歳空港と函館空港からのグループが羽田空港で合流後、車で静岡へ移動。スタート地点の登山口、須山浅間神社にお参りした後、車で一合目までトレースをし、山中湖周辺の宿に入りました。机上講習会や懇親会を行い翌日からの登山に備えました。

26日はいよいよ富士山富士宮口の一合目から登山開始。天気はガスが晴れたり曇ったりですが気温は高めで、日陰がないとばてしやすい気候です。樹林帯の美しさから樹林限界、宝永火口と楽しみながら、約6時間強で六合目の標高2,450mに到着。まだ高山病は大丈夫ですが、油断は禁物なのでゆっくり目の動作をします。



27日、小屋前でご来光を拝み、さわやかな気分で頂上を目指します。富士宮口は山梨県側よりもすいているので、自分たちのペースでゆっくりと登れます。下界は雲の下、頂上を見ながらの登山。頂上周辺に着く頃はガスの中、剣ヶ峰手前で雨、しかしながら5時間半で剣ヶ峰到着。最高点を踏んだり記念撮影をしたりと雨が小康状態の中ゆっくりとできました。雨がひどくなりましたが風がないので無事お鉢も一周し、頂上の小屋に入りました。天気が悪いわりに満館です。定番のカレーライス全員が食べました。

28日、数人が頭痛や食欲不振など高山病症状が出ていますが、問題ないレベルで一安心。ご来光もそれなりに見ることができました。雲海の上を3時間半近くで御殿場コース、宝永山経由で富士宮口五合目に下山しました。曇りの下界に下り汗を流して帰路につきました。

本年は去年の機会を逃がした方が早めに申し込まれ、募集開始には一杯で、急遽枠を増やしましたが何とかなる人数で収まりました。幸い高山病ほかで隊を離れる方が出ずに済みました。それなりの高山病症状や空気の薄さを体験して頂け、講習会の目的は達成できたかと思えます。これを機会に高い所へトレッキングや登山に出掛ける方が増えることを期待しています。

## 第15回スポーツクライミング北海道選手権大会 兼第1回全国高等学校選抜クライミング選手権大会北海道予選会 兼第57回札幌市民体育大会クライミングコンペ 10/23 北海道科学大学体育館

参加者数	選手	オープン	8名	ジュニア男子	22名	ジュニア女子	10名
		ビギナー	11名	キッズ	14名		

### 《オープン》

- 1位 岸本 武蔵
- 2位 白戸 隆雅
- 3位 井土 桜花

### 《ジュニア男子》

- 1位 亀田翔太郎
- 2位 関根 溪人
- 3位 竹内 悠真

### 《ジュニア女子》

- 1位 北谷 未紗
- 2位 上原子 瞳
- 3位 田村 光

### 《ビギナー》

- 1位 古屋 隆弘
- 2位 川村 皇寿
- 3位 大加瀬 稔

### 《キッズ》

- 1位 吉田 ゆな
- 2位 高橋 輝夏
- 3位 中島 理央



## 第19回 JOC ジュニアオリンピックカップ大会 8/13-14 富山県南砺市桜ヶ池クライミングセンター

- (男子ジュニア) 7位 岸本 武蔵 17位 野田 銀我
- (男子ユースA) 38位 谷口 翼
- (女子ユースA) 19位 北谷 未紗
- (女子ユースC) 10位 井土 桜花

今年も南砺市桜ヶ池クライミングセンターで JOC ジュニアオリンピックカップ大会が行われた。北海道からの参加者は5名。男子ジュニアに岸本武蔵(北海道薬科大学1年)、野田銀我(遠軽高校3年)、ユースAに谷口 翼(遠軽高校3年)、女子ユースAに北谷未紗(遠軽高校2年)、ユースCに井土桜花(札幌市立三角山小学校)である。

長年引率をしてきて、今年はさほど暑くなかったと感じた。北海道勢も力を充分に出せるコンディションであった。ルートは左からA、B、C、Dと名付けられ、A、Cが女子とユースC男子、B、Dが男子であった。グレードは完登者数と完登者から予想して左から12d(完登2名、田嶋が落ちた)、13a(完登6名)、12c(完登14名)、13a(完登6名、波田が落ちた)というところか。

**13日(土) 予選(フラッシング)1日目**、B壁に野田、リードの全国大会は初めてである。堅くなることなく丁寧にパターン壁の足を拾う。垂壁部のカチの持ち替えに手こずり耐えるが5手進んで20+でフォール、19名中17位。続いて岸本、5回目の出場で落ち着きたいいい登りを見せる。傾斜に入ってからさらに気合が入り33+まで伸ばして7位につける。

女子ユースAにはC壁に北谷、2年ぶりの出場で成長を見せた。下部は持ち前の柔らかさで対応、傾斜に入る足ブラからの手に足ヒール、クロスを決め31手で28名中17位。D壁には谷口、十分に持ち時間を生かして準備し、気合の入った登りを見せる。3分の1程の地点にある横ランジが第



一核心だ。ランジは得意な選手であったが、踏切足と左手の悪さからフォール、15+で44名中31タイ。実に3分の1はここで落ちたということだ。この日最後に井土がA壁に登場、143cmの体を目一杯に使う見事なムーブだ。届かないホールドには内クロスで対応、10枚目からの悪いホールドにも耐え、核心の緑二重丸ホールドを片手保持するもフォール、25+で28名中12位。ユースCは男女とも非常に強い選手が多かった。

**14日(日)** 前日と逆のルートに登る。岸本と井土には予選突破の期待がかかる。まずは野田、下部はスムーズで練習通りの登り。ランジ前に十分シェイク、距離も充分だったが左に流れ過ぎフォール、15プラスで12位タイ、トータル17位であった。続いて岸本、ランジは余裕を持ってクリア、中盤の厳しい持ち替えもクリア、最上位に迫る登りで30手まで行き7位タイ。国体入賞者やワールドユース代表者に競り勝ちトータル7位で決勝に残る。

続く北谷、前日の情報交換を生かし下部で的確に進む。背が伸びたことで余裕も出ている。10枚目の厳しいパートはフットホールドも手で拾いクリア、井土の一手前でフォールし24+で17位、トータル19位であった。両ルートともあと一手ずつ伸ばしていれば13位までに上がっただけに、一手の重みを感じてほしい。

4人目は谷口、テーピングの準備も充分、気合も充分で登り出す。6枚目のクロスに予想以上に手



こずりパンク、警戒していたアンダー取でフォール、15+で35位タイ、トータル38位となった。国体にも選ばれていたが受験と重なり、これが(高校の)引退試合となった。名門遠軽高校(本人の自己紹介より引用)の部長としての重責を十分に果たした登りであった。

5人目は井土、決勝進出には二人を抜く必要があり、上位陣の実力からするとかなり厳しい。しかし本人は全く緊張もなく普段通り伸び伸びとした登りだ。北谷の落ちたパートも余裕があり、傾斜部の厳しいトラバースも手が切れても耐える。40手まで伸ばしてこのルート8位、トータル10位でぎりぎり決勝に残る。小学生の決勝進出は井土一人であった。

**15日(月)** 決勝。ユースCは男女とも同一だが、ほかの Kategorie とは違う課題だった。グレードは12bと予想するが、最後の一手が悪すぎて13a/bかもしれない。森秋彩が落ちたので判断が難しい。井土は最初に登場した。前半の下部に距離的に心配なランジがある。そこまでは平然と登っていたが、厳しいランジで全く止まる気配もなくフォールした。12+で10位。しかし日本の小学生の頂点である。素晴らしい。

岸本は終盤に登場。男子のルートは13b/c前後だろう。女子も13aは確実にあっただろう。両ルートとも名物の渡りがある50手ほどのロングルートだ。13手目にトリッキーなムーブがあり、ユースBでは3人が落ちている。岸本はよく考えたムーブで対応し傾斜壁へ進む。大きな丸い張りぼてを両手で押さえ込み右手クロスを出すムーブで足が切れフォール、29+で7位であった。ワールドクラスのメンバーの中で決勝進出を果たした彼にはさらなる進化が期待できる。

(文責 畑野 和宏)

## 山岳指導員(積雪期アルパイン)養成講習会 11/19-20 吹上温泉白銀荘・三段山

平成 28 年 11 月 19 日(土)から 20 日(日)、十勝岳連峰山麓の白銀荘と三段山に於いて第三回目の山岳指導員(積雪期アルパインクライミング)養成講習会を実施しました。受講者は 17 名、スタッフは副委員長の石川氏、指導委員会滝澤氏、横山氏、澤田氏、下山さん、藤木たか子さん、渡邊氏、藤木の 8 名で対応しました。今冬シーズンは降雪が早く沢山の雪を期待したのですが、雨の日もあり周囲は笹藪が目立つ降雪状態でした。

19 日は 10 時より白銀荘で積雪期の基礎理論講習を行いました。まず、アイゼン無しの雪上歩行、アイゼン&ピッケルを用いた雪上歩行等の講習、積雪期テント・雪洞の生活技術、ビバークなど緊急避難と雪崩対策セルフレスキューについて熱心に受講しました。休憩を挟み続いて、リーダーの法的責任とアイゼン、ピッケルなどの冬山における用具知識など終日にわたり受講しました。

20 日はあいにくの小雨模様の中、三班に分かれてグループ行動。ビーコン、地図・コンパス等の入山チェック後、三段山の实技会場を目指し出発。一段目の急斜面にて歩行技術、制動確保、耐風姿勢などアイゼン・ピッケルワークを雨と寒さの中で実技・指導実習を行って無事終了しました。

(報告 指導委員会委員長 藤木 晴夫)



机上講習



実技講習

## スポーツクライミング指導員養成講習会 9/3-4・11/26-27 小樽潮陵高校・赤岩小屋

競技委員会が主管する平成 28 年スポーツクライミング指導員養成講習会は、前期・後期それぞれ二日間にわたりクライミング指導に係るカリキュラム全 30 時間の講習を小樽潮陵高校、赤岩小屋で 15 名が受講し実施された。

講師は石井昭彦(主任検定員)、橋村昭男(副主任検定員)、林千里夫、江崎幸一、山納秀俊、本堂雄大の各氏が務めた。

## 冬期遭難対策研修会 12/10-11 大雪青少年交流の家・十勝岳

12月10日～11日にかけて大雪青少年交流の家と十勝岳望岳台において、初冬期の遭難対策研修会が開催されました。施設は少年から大学生の冬期合宿が入り混雑していましたが、十勝岳付近は連日の降雪により1.5mの積雪があって十分な環境となり、研修では一般3名、会員8名、講師・スタッフ6名と合せて17名が集まり、大橋講師を迎え今期課題の雪崩レスキューの救助時間の短縮を中心に研修を行いました。

1日目の始めは、道内の山岳遭難について、ここ数年道外や海外からのスキーマーなどの増加に伴い、山梨、富山に次ぐ遭難事故の増加となった。また、10年間に雪崩事故は51件発生し14人が死亡、死亡率27%に至っているなど遭難の実例を挙げ研修を行いました。

引き続き大橋講師から、映像を交えて雪崩に遭ったときの対処方法、国際標準によるセルフ救出、サーチ&レスキューについて講演されました。雪崩による埋没は、雪質により異なり生存時間は、日本人の場合、従来言われている生存曲線より短いと思われ、埋没より20分程度が大事な時間と言われるようになった。このことにより、より早く救出するための技術、チームワークが必要不可欠となる。また、救出後の保温処置も生命維持に必要となるが、危険地帯に近寄らないのが一番である。

最近のビーコン(アバランチトランシーバー)について、受信距離は多少短いもののXYZの三方向の発信と受信が出来るため、ほぼ直線コースに近い形でたどり着ける。また、複数の埋没者が表示され、順次削除と次の埋没者の発見もしやすくなっている。スピーディな救助では①救出のチームの組み立て方②ビーコンとプローブの搜索方法③救出と保温のためのラッピングなど、訓練を繰り返し熟練が必要になる。

ビーコンとプローブを使った搜索に5分以内、シャベリングによる救出10分以内にする目標には、リーダーの強い意志のもと①状況の把握②作業行動の分担、連絡、用具の用意③予測地点への急行、10m、5mと時間の声出しカウント④雪崩線上に遺留物の確認⑤ビーコン、5m以内のプロービング⑥シャベリングの基本は深さと同じ距離を斜面の下側より掘削など、パワーポイントと搜索訓練手順のDVDを使い講演した。その後、救助者の低体温を防ぐため、持ち合わせの道具を使い効率よく保護するためのラッピング法を数例行いました。食後の交流会では、普段聞けない遭難の対処法やロープの結び方、新しい器具の使い方で大いに盛り上がりました。

2日目は8時30分より望岳台へ移動し、リーダーを入れ替えながらビーコンのON、OFFの確認方法、時間を計りながらグループに別れての複数の搜索方法を行い、最後にプローブを立てた位置からの掘削を順次行いました。シャベリングでは、広場の除雪の締まった山を使いプローブを刺した深さ2mの位置に遭難者が埋まっていることを想定、5人が組となり交替で斜面の下方から2m幅、斜めにシャベリングを行った。



1分ごとカウントする中、プローブの先が出るまで作業を行い、1回のシャベリングでは30秒程度で交代、みな息が上がり、それでも5～7分程度で掘削することが出来ました。

12時、閉講式は望岳台に新しくできたシェルターで行い、講師講評では、レスキューリーダーやチームワークの大切さと救助の難しさについて話され、受講生から研修は厳しかったが、普段疑問のことも教えてもらったなどとの意見あり、2日間の研修は終了しました。

(報告 遭対委員長 斉藤 邦明)

## 今後の諸行事

**氷壁技術講習会** (指導委員会・海外登山委員会)

平成29年1月21日(土)～22日(日) 層雲峡温泉ペンション銀河・銀河の滝

**冬山講習会 Part 1 (基本編)** (普及委員会)

平成29年2月4日(土)～5日(日) 京極山荘・羊蹄山京極コース

**山岳スキー(氷雪)技術研修会** (指導委員会・山岳スキー運営委員会)

平成29年2月4日(土)～5日(日) 蘭越町まっさんヒュッテ・ニセコ山系周辺

**日山協競技部ブロック別研修会** (北海道ブロック・国体委員会)

平成29年2月18日(土)～19日(日) 札幌市生涯学習センター ちえりあ

**山岳スキー技術検定会** (指導委員会・山岳スキー運営委員会…要項未確定)

平成29年2月25日(土)～26日(日) ニセコ山系

**冬山講習会 Part 2 (応用編)** (普及委員会)

平成29年3月4日(土)～5日(日) 五色温泉・ニセコ山系(イワオヌプリ・チセヌプリ)

**第3回理事会**

平成29年3月12日(日) 札幌市(会場未定)

★ 詳細は道岳連HP又は加盟団体配布の要項を確認ください。

### 公益社団法人 日本山岳協会からのお知らせ

2016.12.14 **法人名称変更について**

平成28年11月13日に行われた臨時総会において、本協会の法人名称を平成29年度より、次の通りに改称することが決まった。

(新名称)

「公益社団法人 日本山岳・スポーツクライミング協会」

英文では、「Japan Mountaineering & Sport Climbing Association」と表示し、JMSCAと略称する。

登記は平成29年4月3日を予定しており、内閣府への変更届は登記後になります。それに合わせて、協会のロゴマーク、旗などの変更となります。

## 全日大会開催準備状況

今年7月に開催する第56回全日本登山大会北海道大会の準備は、大会実行委員に、小野、神山、秋元、益田、藤木、橋村、内藤、田中、橋本、石川、玉木、太田、明田の各氏を委嘱し、11月24日までに3回の実行委員会議を開催した。

エージェントや本部体制の決定、大会実行予算(案)の計上、1月中旬までに大会開催要項、登山コース案内などを作成し、日山協代表者会議で発表するなど、鋭意大会準備がすすめられている。



倶知安町・ニセコ町・京極町・喜茂別町・真狩村・留寿都村・蘭越町・共和町



湧水の羊蹄山と緑萌えるニセコ山系

募集人数  
270名

Shinichi Kosuge

ニセコアンスタリから羊蹄山迄まで



主催：(公社)日本山岳協会 主催：北海道山岳連盟

後援(予定)：文部科学省・環境省・(公財)日本体育協会・北海道・北海道教育委員会・(公財)北海道体育協会  
倶知安町・ニセコ町・京極町・喜茂別町・真狩村・留寿都村・蘭越町・共和町



道岳連創立60周年記念として発行したDVD「北海道の山スキー」が好評につき、500部を増版した。秀岳荘が協賛、道岳連加盟山岳団体会員や一般山岳スキー愛好者にも購入協力をお願いする。  
(問合先 藤木指導委員会委員長)

### 道岳連だより

北海道山岳連盟広報 No.79 平成29年1月10日発行

発行 北海道山岳連盟 事務所 札幌市豊平区月寒西3条10丁目2-48

発行責任者 小野 倫夫 編集担当(総務) 内藤 美佐雄